

■児童・生徒の学力の状況

全国学力学習状況調査から、数学は全国平均よりも3ポイント高く、都の平均と同じであり、データの活用や思考判断表現が優れている。英語は、全国平均よりも0.4ポイント高いが、都の平均よりも5ポイント低く、特に読むことが低い。国語は全国平均、都の平均よりも4～6ポイント低く、特に書くことが目立って低い。説明文を書くことに慣れていないことが露呈したと思われる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

自分の考えや説明を、しっかり文書としてまとめさせ、タブレットパソコンを使用して、他の生徒との情報の共有を図り、論理的に考えをまとめる力や表現力をさらに向上させる。ペンをもって文書を書くことが苦手な生徒でも、タブレットパソコンを使用すると、意欲的に取り組めるといった特徴もあるので、ICT機器のさらなる活用方法を模索する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

読み解く力の6つの項目を、授業めあてに当てはめて、授業者が読み解く力を意識した授業を実践する。特に生徒のアウトプットについては、確実に実践させ読み解く力向上の要とする。  
生徒の学びを深めるためには、自己の考えをしっかりとまとめる力、これを他者に分かりやすく伝える力、他者の意見を聞き自分の考えに取り入れたり修正したりする力が必要である。これらの力を育成するために、指導内容と題材を精選し、緻密な指導計画のもとアクティブラーニングを実践する。  
個別最適化された主体的な学習を実践させるために、自分が決めた課題に取り組む家庭学習を毎日実施させ、教員がそれを毎日確認しアドバイスを加えるなどして返却する。月ごとに実施状況を集計するなどして、保護者へ通知することにより保護者を啓発し協力を仰ぐ。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
まずは、課題を発見できるよう発問や授業展開を工夫する。その課題解決に向けて、調べ学習で終わることがないように、必ず調べたことを参考にしながら、自分の考えをしっかりとまとめさせることができる課題設定を行う。	小員数での話し合いの場面を、授業の中で多く取り入れる。タブレットパソコンを活用し、グループ内での話し合いに役立てることはもちろんであるが、クラス全体でも情報共有し、さらに学びを深化させる。	毎時間生徒に授業の振り返りを行わせて、自己の課題に気付かせるとともに、教員は生徒が自ら学びを調整する様子を観察し、評価の一助と知る。また、学びが不十分な生徒については、課題を与えなどして、個別的支援を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
授業におけるマナー・ルールについては、本校の現状ではあまり問題となっていないが、一部生徒の不規則発言などもあることから、次のようなルールで授業実践する。授業中は挙手による発言を基本とし、自由に発言させることによって、生徒の意識や考えを高める場合は、教員が時間を区切ってその中だけ自由に発言してよいものとする。	本校では教科センター方式を採用しているため、各教科教室の活用について特に掲示物等教室の整備に力を入れる。生徒の成果物を掲示することにより、他者の考えを知ることができたり、上級生の成果物を目にできたりすることにより、学習に対する見通しと憧れを抱かせる。また、放課後補充教室を週2回実施、放課後自習教室を週3回実施、教員が管理する家庭学習の実施といった、生徒を取り巻く全ての学習環境について常に改善を加えていく。	若手でICT活用に積極的な教員をリーダーとし、機器の活用に関する情報提供や助言を行わせ、効率的・効果的な授業が実践できるよう教員のスキルを向上させる。 板橋第四小学校と合同で、総合的な学習の時間に関する研修を行い、探究的な学習を実践する。また、これにより、各教科での探究的な学習の実践にもつなげ、教員の指導力向上を図る。